

再質問の方式
1 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

## 小平市議会定例会一般質問通告書

### 質問件名 小平市でも外遊びの推進を

**質問要旨** 空地や自然空間、あそび仲間の減少、交通量の増加や大人の見守りの希薄化など生活環境の変化で、子どもの外遊びが減っています。シチズンホールディングス(株)が2016年6月に公表した「子どもの時間感覚35年の推移」によると、小学校高学年の子ども達が外で遊ぶ平均時間は、1981年の2時間11分から2016年は1時間12分へと59分減少しました。コロナ禍で外遊びの時間は更に減っており、近視予防フォーラムの調査では、子どもが1日に外で遊ぶ平均時間は、2019年の61.1分から2020年6月には35.4分と42%減少しています。外遊びで、子どもは外気温の変化に触れ、遊んで汗をかくことで、体温の調節などの自律神経機能や体力が向上し、ストレスや不安を解消し、遊びを通じた友達との関わりや人との出会いで、社会適応能力も高まります。政府は今年7月7日に「こども政策の推進に係る作業部会」を開催し、こども庁創設に向けて動き出しました。それに先立ち自民党の国会議員グループが出したこども庁創設に向けた第二次提言では、外遊びのできる環境・体制の整備も課題として上げられています。

1. ユニセフのイノチェンティ研究所が、昨年刊行した「レポートカード16 子どもたちに影響する世界:先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」で、日本の子どもの精神的幸福度は、自殺率の高さや生活満足度の低さのため38か国中37位でした。同レポートでは、子どもが外で遊ぶ頻度と幸福感には関連があり、毎日外で遊ぶ子の方がほとんど遊ばない子より幸福感が高いことが示されました。子どもの幸福度と外遊びについて、市の見解をお聞かせください。
2. 子どもの視力低下が進んでおり、文部科学省の学校保健統計調査で裸眼視力1.0未満の子の割合を2004(平成16)年度と2020(令和2)年度で比較すると、5歳児で20.78%から27.9%へ、小学生で25.55%から37.52%へ、中学生で47.68%から58.29%へと増加しています。近視予防フォーラムの坪田一男慶応義塾大学名誉教授は、外で過ごす時間が減ったことが、近視急増の最大の原因との研究があることを紹介し、同教授が代表を務める近視研究会は、学童の近視進行予防のために、1日に2時間は外で遊ぶことなどを推奨しています。小平市では、子どもの近視予防のために何か対策はしていますか。
3. 千代田区が2013(平成25)年に制定した「子どもの遊び場に関する基本条例」は、区や区民が子どもが外でのびのびと遊ぶことができる環境づくりに協力することを目的とし、遊び場と、運営を行う人材の確保等を定めています。同区は、この条例に基づき、区内の公園や廃校となった小中学校グラウンド9か所を使って、平日の午後や土日に、プレーリーダーとボール遊びができる場所や時間を設けています。小平市でも、ボール遊びができる公園等で、同様の事業を行ってはいかがでしょうか。
4. 保育所保育指針には、子どもが自然に触れることや、自然のなかでのびのびと遊ぶことが保育の内容として含まれています。また、文部科学省の幼児期運動指針は、外遊びの時間が長い幼児ほど体力が高い傾向にあるとし、幼児が体を動かす時間として「毎日、合計60分以上」を目安

としました。一方、放課後児童クラブ運営指針は、子どもの遊びを豊かにするため、屋外遊びを行う場所を確保することを求めています。新潟県三条市は、保育所等で幼児が運動遊びをする時間の目安や遊び方を紹介する「三条版運動遊びプログラム」を2017(平成29)年に公表しました。市は、保育所や幼稚園、児童館、学童クラブ等の子ども向け施設での外遊びの実態を把握していますか。それら施設での外遊びの現状と増やすための施策をお教えください。

5. 世田谷区の「子ども計画(第2期)」(平成27～令和6年度)は、子どもの生きる力を育むため、外遊びを推奨し、全ての子どもが身近な場所で外遊びができる環境を整備することを施策に掲げ、外遊び検討委員会を設けて外遊びを推進するための課題や体制について報告書をまとめ、取り組んでいます。小平市子ども・若者計画にも外遊びの推進を盛り込んではどうでしょうか。
6. 世田谷区は「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、どろんこ遊び、木登り、工作、たき火など、他所ではできないような遊びを自然の中で自由にできるプレーパークの国内発祥の地で、1979(昭和54)年に区と住民の協働事業として始まった羽根木プレーパークをはじめ、現在4つのプレーパークがあります。市長は87の政策に、子どもの自由な遊びを保障するためプレーパークにプレーリーダーを配置することを掲げましたが、プレーパークの推進に対する市長のお考えをお聞かせください。
7. 世田谷区は、外遊び推進の一環として、スタッフが遊び道具をリヤカーや車に積み、公園で乳幼児親子や小学生の遊びを支援する「プレーリヤカー、プレーカー」事業を17か所の公園で月1, 2回ずつ実施しています。国分寺市も同様に、市内10か所の公園をプレイリーダーが週1回ずつ訪れ、午前中は乳幼児親子、午後は小学生と一緒に遊ぶ「青空ひろば」を2017年から実施しています。小平市でも同様の取り組みをしてはどうでしょうか。
8. 川崎市は、2000(平成12)年に成立した川崎市子どもの権利に関する条例を具体化するための施設として2003年に川崎市子ども夢パークをオープンしました。9871㎡の敷地に、プレーパークやスタジオ、交流スペース、フリースペースなどが設置され、月1回のお休みを除き毎日朝9時から夜9時まで開いています。子どもの遊びや活動を保障するため、子どもの権利条例は重要な役割を果たします。子どもの権利条例に対する市長のお考えをお聞かせください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和3年8月30日 小平市議会議長 殿      小平市議会議員 氏名 水口 かずえ